



令和6年度 施設関係者評価 報告書

1. 当法人のミッション・ビジョン

ミッション

こどもを生み育てる感動を、私たちの地域から社会への広げていくこと。

ビジョン

子育ての楽しさを伝えるエンターテイナーになろう。

2. 当園の教育・保育理念と方針

教育・保育理念

地域に根ざし誰からも信頼される子育て支援の中核的施設を目指します。

教育・保育方針

こどもの最善の利益を考え、生涯にわたる人間形成の基礎である「生きる力」を育みます。

3. 当園の教育・保育目標

- ・健やかな子ども
- ・心豊かな子ども
- ・考える子ども

4. 本年に当園が取り組むべきと計画した重要事項

- ・「こどもまんなか社会」実現のための多機能化検討
- ・寝屋川市就学前教育・保育プログラムに沿った保育内容の検討・既存の保育内容のブラッシュアップ

5. 自己評価及び評価項目について

大阪誠昭会では、教育・保育の質を高め子どもの成長をより豊かにするため「幼保連携型認定こども園・教育保育要領」を基にしてつくられた自己チェックリストを用いて年3回自己評価を行っています。自己チェックリストでは、単に評価結果を出すだけではなく「個人の評価」「園全体の評価」「園内研修の教材」「カリキュラム・マネジメント（教育・保育計画へのフィードバック）」の4つのポイントで自己の能力を判断すると同時に園全体として、具体的にどのようなことに力を注ぐことが必要なのかもチェックリストを使った評価で見えていきます。保育教諭の一人一人の努力を園全体として有効なものとする事で園と職員の評価を高め、教育・保育を豊かにすることに繋ぐことを目指しています。

詳細についてはホームページ内の「令和6年度 自己評価報告」に譲るとして、全体を通して子育て支援に関する評価が低くなっている。地域的に子育て支援事業を利用される方が比較的少ない傾向があるが、今後の人口増加が見込まれる地域であるので、その辺りも視野に入れ、子育て支援についてじっくりと考えていく必要がある。

6. 公開保育（令和7年1月16日（木）開催）を見学しての意見・感想等

5歳児テーマ：「豆まき」について～行事を企画しよう！！～

【A委員】

担任が昨年の豆下記の体験を園児に話し、その中で楽しかった体験を思い出すことができたようです。さらに年少児たちも豆まきを楽しめる内容として、どんな内容が良いか考えるきっかけを作ったことがとても素敵です。みんなに思いを発言してもらおうと2つのグループに配慮しました。しかし、小グループになっても思いを発言できない子どもが何人かいたように思います。保育教諭の共感的なまなざしを向けることや「どうかなあ？」と発言できるきっかけや、思いを代弁していくことがもっとたくさんあればなおよかったです。5人グループの方が話しやすいと聞いたので、もう少し小さいグループにし、一人一人が企画に携わっているという思いになれば良いですね。

【B委員】

保育案を読ませていただいたときに話し合いだけの保育はどんなものか興味をもって参加した。

話し合いのためにコの字型で椅子に座っての環境設定は、友だちの顔が見えて良かったと思う。友だちが話している時の約束もしっかりみんなを確認しておくことができていた。

「豆まきは、どうしてするの？」という問いかけに子どもたちなりに今まで経験してきた事を思い出しながら「5歳児が鬼をする」「自分たちも参加したい」「準備する人と交代する」「豆まきには何が必要？」の問いかけには、「鬼の面や服、パンツ」が必要で「小さい子にも教えてあげる」など様々な意見が出るような声かけをされていた。必要に応じて「鬼や金棒、恵方巻」などの絵を用意しており子どもたちにも視覚で示すことができて良かった。また、発言できない子どもの為にもさらに小グループに分かれての話し合いは良かった。

発言した内容を紙に書き出し、誰が発言したのか顔写真をつけるのも良かった。

5歳児ならではの話し合いで色々な意見をどう次につなげていくのが難しい保育だったと思いますが、うまくすすめてられました。あとは、先生の声の大きさに気をつけられても良かったと思います。本番の「豆まき」が楽しみです。



4歳児テーマ：オリジナルの服を作ろう！

【A 委員】

オリンピックをきっかけに世界について調べ、いろいろな服装等があることを知り、興味をもって保育を行ってきたことは素敵だと考えます。どんな活動をするにせよ、大事なことは子どもが興味をもって楽しんでいるか、保育教諭が園児の思いまでをみとることが保育にとって大切だと思います。今回のテーマである主体性を楽しむための1つに環境づくりが挙げられます。環境設定として机の配置がコの字になっていたのも、中心に様々な素材や道具があるほうが、イメージが膨らみ主体的に取り組めると思います。

【B 委員】

子どもたちは、前回の続きが少しでも早く始めたいという様子が伺えた。「使いたいものが友だちと同じになったらどうするの？」の質問に対し「同じ量に分ける」「順番に使う」「一緒に使う」「ゆずる」など自分なりに考えて発言していた。実際の服を見本として見せられていたが、少し時間が長かったのか「早くしたい～」という声が出ていた。詳しく伝えるのは、良いが保育案にもあるように「はさみの使い方」や飾り付ける素材の紹介がもっとあっても良かったと思う。説明の時も机といすをセッティングされていたのでそこに座ってされた方が、先生の横にいた子に「座ろうか？」と何度も声かけをされていたので回避できたと思います。飾りつけの時間が十分になかったように感じました。「みんなにも見てもらいたい～」の声もあったので、是非、作品展等で展示して下さい。これからも飾り付けが続くと思いますのででき上りが楽しみです。



7. 施設関係者評価委員の意見及び感想等総合的所見

・第1章から第4章の自己評価は、1回目～3回目もほぼ十分理解できていた。しかし、「園の基本姿勢について」や「園独自の取り組みについて」は、3回目にやっと理解できてきたようだ。年度当初からは、園独自の取り組みは理解が難しい様であった。一年間通して積み重ねて伝えていった成果が見られたので良かったと思う。

・100項目の自己評価を年3回実施している職員の姿勢はすごいと思います。さらに、法人の教育・保育に対する質の向上を目指しているという熱い思いも感じました。園の基本姿勢が回を追うごとに、十分理解できているという結果になっています。このことは、ねやがわ寝屋の森こども園の理念のもと、職員一丸となりより良い保育をしていこうという姿勢が伺えました。

・自己評価の集計結果でも表れているように、園の基本姿勢について、園長の思いを職員が理解し、子どもたちの主体性を重んじた教育保育の提供を目指そうとしている姿勢がうかがえた。総則については、法律的なこともあり、理解が難しかったり腹落ちするのに時間がかかると思われる。第2章のねらい及び内容等に関しては、保育教諭の先生たちは、狙いを考え実践に向けて活動できていると思うが、自己評価では普段やっていることが当たり前になっているため、厳しめに評価しているのではないと思う。

園独自の取り組みとして、近隣の住民の方の畑をお借りし、地域を巻き込んで農業体験を行っており、さらに食育の観点から、お弁当屋も巻き込んで、園でとれた野菜を給食に反映させているなど、地域に根差した園作りだけでなく、子どもたちへの質の高い教育保育の提供と、食育の融合が行われている施設だと感じた。

